

里山グループ

村上 雄之

◆シイタケがヤバイ？

現在里山では800本前後のシイタケの原木を育成中。毎年冬場にコナラ材を150本前後ホダ木として準備しており、今年もその作業に取り掛かる。

ところでシイタケの成育には、ご存知のように温度と湿度の管理が重要で、温度15℃～20℃、湿度60%～90%で、時には冬場のような寒さも必要とか。

◎今年は夏場の猛暑と少雨、9月の台風21号による多数の倒木、枝折れ、落葉の影響で、「遊びの広場」南側に育成中のシイタケ原木が強い日差しを受け、原木がカラカラに乾燥。断射シートで対応中だが残念な原木も多数。収穫減が懸念。

ここ里山の中で温度、湿度、日当りの条件を考えると、「北側斜面皆伐地」の裏側の谷筋や東側の杉林の中の低地が良場と思われ、良く整地後、ここに集約してはどうか。皆様のご意見を。

◎現在シイタケのホダ木にはコナラ材を使用しており毎年20本前後の生木を伐倒する事になります。さらに数年前から発生しナラ枯れによる多量の消滅、自然枯死によりコナラの生木数は2,000本弱あったものがこの数年間で900本台にまで減少している。

ホダ木の年輪を数えてみると20～25年の歳月を要しており現在の植樹数と伐倒後の自然発芽(未調査)では将来コナラが不足する？

一般的にはシイタケ用の原木としてはクヌギ材が使用されているようでコナラに比べて①樹皮が厚く害虫に強い。②伐倒後の萌芽更新がより安定で8年後にはホダ木として使用可能。③根張りが広く風害に強い。ここ里山林もクヌギの数を増してはいかがでしょうか。



エコファームグループ

岸谷 和代

◆出番を待つ野菜たち

冬の到来と共に露地野菜がおいしい季節となりました。畑は、一面緑に覆われ出番を待つ野菜でいっぱいです。朝露をたっぶりまとった葉は、みずみずしく輝き、作り手に大きな喜びと元気を与えてくれます。収穫へのゴーサインです。

ほのぼのの市は、大にぎわい。今日もたくさんの野菜たちが並んでいます。

一番人気は、大根。作付面積・顔ぶれも一番。重量あてクイズに登場する最重量級の桜島。ピリッと辛味の緑のわさび・赤が美しい紅心。クリクリ頭の丸大根。でも、やっぱりYRくらま。色白、ツヤ肌美人で食味も特級品。煮てよし、漬けてよし。ひっぱりダコの千両役者です。

純白の球体がキュートな小カブのスワン。白と赤紫のコントラストが魅力の細くて長〜い日野菜。原産は、滋賀県日野町で形は違ってもカブの仲間。独特の食味がお漬物大好き人間にはたまりません。

畑の真ん中でどっかり陣取っているのは白菜たち。青虫に食べられ、水不足にも耐え日ごと貫禄も増し、隣のネギと共に出番は、もうすぐ。

あふれる緑で「今が食べ頃よ！」と合図しているキクナとほうれん草。「あげと青菜のたいたんがおいしいよ！」と小松菜に大和まな。

土の中でゆっくり大家族に成長した里芋一家。親芋、小芋、孫芋、仲良くくっついてバラバラにするのは大仕事。秋のイベント



の主役は、やっぱりさつまいも。赤いほっぺで「こんにちは！」。

リーダーの「手抜いたらあかんよー」の声を共に聞き育った野菜たちは、愛すべきエコの仲間です。

そろそろほのぼの市の始まる時間ですよ！

景観グループ

内河 洋文

◆竹林の整備

毎年、春と秋に聞こえてくる JR 東海のテレビ
コマーシャル『そうだ 京都 行こう』(関東地方
のみかと思います)。何年か前のその CM の中で
流れていたナレーション

『わたしは 未来から

お礼を言われるような

すてきな 過去になりたい』

この「ならやま」で活動するようになって、時々
思い出すお気に入りのフレーズです。

所属する景観グループ整備チームでは「ならや
ま」全体の草刈りがメインの任務となっている。
刈払機は「歯」が命です。腰まである一面の雑草
の中に足を踏み入れ、新品の「歯」で雑草を刈る
瞬間の何とも言えない爽快な気分は、草刈りを経
験した人にしか味わえない。その「歯」も何度か
使っているうちに切れなくなると途端にテンショ
ンが下がります。今夏は雨が少ない割に雑草の成
長が早く、草刈りが思うようにはかどりませんで
した。至る所、雑草が伸び放題です。「ここをし
てくれ、あそこを刈ってくれ」との要請がたくさん
あったことでしょう。放置されて背丈まで伸び切
った草は、二重三重に刈らなければならず、通常
の倍以上の時間がかかります。雨でぬれた後の草
刈りはさらに大変です。倒れた雑草を刈って、す
くいおこし、脇に払いのける一連の作業は、翌日
の筋肉痛となりますが、おかげで足腰は丈夫にな
りました。

冬季は竹林の整備などをします。去年は寒風吹
きすさぶ中で、古竹の切出し、枝落としなどの作
業をしました。竹の繁殖力は「半端ない」ですな。
できれば毎年 6 月頃までに、残すタケノコ以外は
全て切り倒すなどの対策で竹林の美観を保ちたい
と思う。

私も、未来からお礼を言われる
ようなすてきな過去になれるかな。
なれるよう、この「ならやま」で
の活動を続けて行きたいと思う。



パトロールグループ

坂東 由紀子

◆サンキライ (山帰来)

今年 4 月からパトロール班で活動しています。
その折、小島さんの案内でコース番号を忘れまし
たが、パトロールいたしました。元気につるを伸
ばして、足にまとわりつく「サルトリイバラ」を
除けて歩きながら、子供の頃、母の作った柏餅を
思い出しました。私の里、岡山では 5 月の節句の
柏餅の葉は、ハートの形をしたサルトリイバラの
葉(岡山弁で、ガメの葉、またはドンガメの葉と
いう)を使っていました。

長じて、学生時代、植物採集に出かけた折、講
師からこのサルトリイバラは、「サンキライ・山帰
来」といい、薬草だと教えられ、驚いたことを覚
えています。根っこは今も、漢方薬として使われ
ています。

調べてみると江戸時代に伝わったサンキライは、
とげのない中国南部、東南アジアに自生している
植物だったようです。しかし今では、このサルト
リイバラをサンキライと呼んで、お花屋さんで花
材として、四季折々に使われ、特に、赤い実のつ
いたつるは、クリスマス用のリースとして売られ
ています。

数年前、里帰り
をした折り、竹久
夢二の生家(瀬戸
内市邑久町)を訪
ねました。東京に
夢二が建てたアト
リエ付き住宅が、
その生家より
500m 程離れた場
所に復元され、小
さな美術館になっ
ておりました。そ
の住宅の名前が

「少年荘」別名「サンキライ(山帰来)荘」とな
っており、ハートの形をしたサルトリイバラの葉
を、連想したことを思い出しました。

